

2020年度 看護部目標

2020.2.3

1. 2020年12月末までに様々な資源^{*}等を適切に活用し、効率的かつ効果的な業務遂行ができる

*資源とは人材、物、技術、ノウハウなどをいう。

*資源を適切に活用しクオリティアップ(看護の質向上)、コストダウン(経費削減)、スピードアップ(タイムリーなケアの提供・残業削減)など、効率・効果的な業務遂行を目的としている。

【評価指標】

- 1)「効率性」と「効果性」の両方を満たせた場合、到達とする
- 2)効率性:取り組みにより①または②であること
 - ① 業務プロセス・業務内容がスリム化する
 - ② 時間の使い方や仕事の管理方法が改善する
- 3)効果性:効率性の取り組みにより以下の例のような効果が生まれること
 - ① 他部署・他部門・他職種とのカンファレンス回数が増える
 - ② 業務・係活動・委員会活動を時間内で実施できる
 - ③ 看護記録が充実する
 - ④ 患者を待たせない看護実践ができる
 - ⑤ ナースコール回数が減る
 - ⑥ 合併症・転倒・ルートトラブル・誤薬等が減る

2. 2020年12月末までに、看護の質^{*}向上に繋げることができる取り組みを1つ以上実施し、看護のやりがい感^{*}を見出すことのできる

*質とは、医療安全・業務の適正化・患者満足・職員満足を構成要素としている

*やりがい感とは、仕事で成功して得られる達成感や、価値ある仕事に携わることで感じられる充実感。継続的な気持ちの高まり・情熱であり、仕事に対する前向きな気持ちの高まりである「やる気」をもとにした感情。

【評価指標】

- 1)「プロセス」と「結果」の両方を満たせた場合、達成とする。
- 2)プロセス:①と②を行えること
 - ①部署の職員全員が意見を出しあい、看護の質向上のために取り組む内容と現状分析、期待する成果、具体的な評価指標を決定すること。
 - ②管理者は、取り組み内容の妥当性を確認する。また、成果を上げるよう進捗管理、やる気・やりがいを見出せるよう目標面談等で動機づけを行うこと。
- 3)結果:①と②を行えること
 - ①部署で決定した看護の質向上のための評価指標が達成していること
 - ②部署職員が取り組んだことに対して肯定的な感情を持つこと

3. 2020年12月末までに、各セクションの教育体制*を確立し、責任ある看護実践ができる看護師を育てる

*現任者の教育だけではなく、新卒看護師、既卒の新入職者、院内異動者、介護職など様々な対象に対する教育体制を整えることを目的としている。

【評価指標】

- 1)「プロセス」と「結果」の両方を満たせた場合、達成とする。
- 2)プロセス:①と②と③を行えること
 - ①対象に合った教育計画を立案し、月毎に期待する成果、具体的な評価指標を決定すること。
 - ②部署全体で育てるという意識をもち、全員が関わる。
 - ③管理者は、取り組み内容の妥当性を確認する。また、成果を上げるよう進捗管理、対象者及び指導者の動機づけを行うこと。
- 3)結果:①と②を行えること
 - ①12月末までに、新人看護師が夜勤のひとり立ちができていること
 - ②看護師の離職率が減少すること